**わたしから始まる平和統一**

**山田　めぐみ**

**大きなテーマである、平和も統一も。　最近、実感できたわたしから始まる平和統一への取り組みはこれかも、とおもえた出来事があったので紹介したい。**

**それは祝福結婚をうけて韓国から日本にとついでこられた韓国婦人がはじめた料理教室でのことである。わたしはそこで、運営のお手伝いをすることにした。なぜなら学生時代、栄養士の勉強をしながら地元の料理教室に通い、先生の指導を受け、その後、先生の助手をしたことを思い出し、楽しそうだな、と思ったからだ。**

**学生時代は包丁の持ち方切り方、調味料の計り方入れ方。知らないことばかり、何を作ったか覚えていない。教室中は洗い物をするばかり、帰ってからレシピを見て作ろうにも材料が揃っているわけではない。買い物に行って、同じ食材がないといっては、親にせがみ、器具がないといっては作れない言い訳をいい、本当に手のかかる実習生だっただろう。それでも何度も先生のそばで学んでいくと楽しくなり、卒業をすることができたことはいい思い出だ。**

**そんなわたしも祝福結婚を受けさせていただくことができた。優しくて気が利く、素敵な男性とご縁をいただけた。その上、お魚を釣って、お刺身を作って食べさせてくださる料理上手なだんな様、となれば言うことなしである。天の父母様はわたしのことを余りにもよくご存知で幸せにしようとしてくださっていることを身もって実感する毎日だ。**

**それでもわたしも家庭を守る妻として、母としては日々台所に立ち続けている。おいしい、と喜んでくれる子どもたちに恵まれ、時間がかかっても出来上がってくる料理をこころまちにしてくれる夫の支えでなんとか、なんとか夕食を作り、一緒に食卓を囲む当たり前の日常を楽しんでいる。**

**韓国家庭料理教師の第一回目はキンパプ。とっても緊張し、食器洗いに徹する。そして、先生である韓国婦人の手際がよすぎる。何をしているのかわからず、レシピもない中でどんどん出来上がっていく。人参が千切りピーラーを使うとプロ並みの仕上がり。ごま油とダシダという韓国調味料で味付けされる。どれだけ入れたか分からず葛藤した。再現できないではないか、韓国料理はこのように手早いのかと。**

**へとへとになって帰って、作ったキンパを夕食に出してみた。子どもたちは一本をあっという間に食べきって、**

**「おいしい、おいしいもっとないの、今度はママが自分でつくって」**

**余りに喜んで食べる姿にわたしもがんばったかいがあった、とよろこんだ。我が家の小さな平和統一の瞬間だ。**

**第二回目はビビンパ。真のお母様が平和祝祭の場で大きな器を囲んで、大きなしゃもじのようなもので混ぜておられた一場面を思い出した。『世界中から集まってくる子どもたちにゆらゆらと湯気の立つ温かい御飯を直接与えたいてたべさせてあげたいという切ない思いを禁じ得ない』とつづられる、『人類の涙をぬぐう平和の母』韓鶴子総裁の自叙伝の一説を思い出す。世界の平和は食事からはじまるのか、世界の平和はあたたかいご飯を囲むところはじまるのか、世界の平和はいろいろな人種、思想をもつひとたちが集まっておしゃべりするところからはじまるのか、と考えを巡らした。**

**今回はスタッフとして、韓国婦人の先生のそばで動くことにチャレンジしてみた。小さなレベルで韓日がひとつになれずして、国の友好もないだろう、と心を定め、素早い韓国人とのんびり日本人が一緒にビビンパつくりを始めた。**

**調味料を入れる器、仕込みの終わった食材をのせる器、盛り付ける器。ひとつずつ確認しながら準備した。話してみれば分かるものだ、違っていたら交換すればいい。納得すれば進んでいく。段取りよく進んでいくことに驚きを覚えた。**

**にんじん、ほうれん草、ぜんまい、豆もやし、合いびき肉とそれぞれの食材にあわせて味付けが違う。ごま油とダシダ、塩など。どれに何を入れたのか混乱してくる。**

**「基本はあるけど、おいしいと思うようにつくったらいいよ」**

**先生からの一言。何組かで作っているので、味見をさせてもらった。同じ材料と調味料をいれるけど少しずつ違う。塩がきいていたり、ゴマの風味が利いていたり。そうか、違ってもいいのだ、おいしいと感じることが大切なのだ、と。**

**みんなで作って、それぞれに盛りつけてながめると美しくて、うれしくなった。五色人種のような五色の食材がお皿の上でひとつになっている。黄身が半熟でつやつやの目玉焼きは太陽のように見える。食卓を囲んで食べた。コチュジャンを入れて、グルグルまぜて。せっかくきれいに作って、丁寧に盛り付けたのに、コチュジャンの赤色で全部あかくなって、何がなんだか分からない。辛くて、ハーハーしながらおしゃべりしながら、モリモリ食べた。お腹も心もいっぱいになった。これが平和で、これが統一されたということと心がほっこりする。**

**韓半島は南北に分断されていて、平和的な統一はどうやってなされるのだろうかと思い巡らせる。そうであっても、真の母　韓鶴子総裁のような母の心でおいしく作った、あたたかいご飯を囲む時、我が家に平和がおとずれるように世界の平和も母の心で行う、ひとつひとつの積み重ねの中におとずれるのではないかと実感する、わたしから始まる平和統一の日常のひとこまである。**